

【40 釈 文】 吾妻郡植栗村浅間焼け荒地見分願い

(天明三年：一七八三)

乍レ恐以ニ書付ニ奉ニ願上ニ候御事

一当七月八日昼時、川上より俄大水、殊ニ火石・焼砂等
押来、川辺通田畑押流、泥焼石押上、田畑
荒地罷成、誠希代之珍事、不ニ存寄ニ大変ニ御座候而、
御百姓共甚難渋仕候、其上夏中より度々
灰降候事故、残田畑等実入悪敷、当時之様子ニ
御座候而者、惣御百姓難ニ相立ニ難儀仕候、何卒以ニ
御慈悲ニ荒地 御見分被レ為ニ成下ニ候様仕度奉ニ
願上ニ候、何分願之通 御間済被レ為ニ成下ニ候
ハ、難レ有仕合奉レ存候、以上

土屋備前守知行所

吾妻郡植栗村

百姓代

天明三卯年七月晦日

助右衛門

組頭

左兵衛

名主

五兵衛

原田清右衛門様

御手代中様

【40読み下し文】

恐れ乍（なが）ら書付を以（もつ）て願ひ上げ奉り候御事

一当七月八日昼時、川上より俄（にわか）に大水、殊（こと）に火石・焼砂等押し来たり、川辺通り田畑押し流し、泥焼石押し上げ、田畑

荒地罷り成り、誠に希代（きたい）の珍事、存じ寄らざる大變に御座候て、御百姓共甚（はなは）だ難渋仕り候、其の上夏中より度々（たびたび）

灰降り候事故（ゆえ）、残り田畑等実入り悪敷（あしく）、当時の様子に御座候ては、惣御百姓相立ち難く難儀仕り候、何卒（なにとぞ）

御慈悲をもつて荒地 御見分（けんぶん）成し下せられ候様仕りたく

願ひ上げ奉り候、何分（なにぶん）願ひの通り 御聞き済み成し下せられ候はば、有り難き仕合わせに存じ奉り候、以上

土屋備前守知行所

吾妻郡植栗村

百姓代

天明三卯年七月晦日

助右衛門

組頭

左兵衛

名主

五兵衛

原田清右衛門様

御手代中様